

除雪作業の現場から



雪担当者名：山口 恒平
担当地区：石川土木総合事務所管内
除雪経験年数：5年

除雪業務を経験してみて

3年前からグレーダーを担当しています。それまでは市管轄のドーザーで主に市道や駐車場を担当していたため、除雪車の待機場所で先輩に教わりながら練習しました。最初は、国道の除雪は自分にできるだろうかと不安がありましたが、速度がゆっくりで良いことと除雪中は前進しかなくて良いためレバーの数の多さに戸惑いつつも、少しずつ慣れていきました。また、慣れてくると路面状態に応じてエッジの向きや角度を変えることで圧雪が起きてくるとうれしい気持ちになりました。まだまだ経験不足できれいな除雪にはなっていないかもしれませんが皆様の期待に応えられるよう経験を積んでいきたいと思っています。最後に、事故をおこさない様、初心を忘れず安全作業を心掛けて除雪に取り組みます。



除雪担当者名：吉田 礼
担当地区：石川土木総合事務所管内
除雪経験年数：20年

20年を振り返ってみて

入社当時は会社の業務に除雪作業が含まれているとは聞いていなかったもので、当初はとても不安でした。何しろ2tダンプも初めて運転する程度の経験値でしたので、真っ先にドーザーやロータリー車の大きさに圧倒されました。その当時（20年前）はまだ「習うより、慣れる」の様な風潮がまだ残っていた時代でしたので、先輩に手取り足取り教えてもらうような事はなく3、4度助手席に同乗して本番を迎えることとなります。担当する路線は山間部だったため住宅街のように障害物が多くあることはないのですが、代わりに街灯も乏しく、ガードレールもない深夜の山道での除雪作業になります。谷に落ちるのが怖くて路肩に寄り切れず、道路脇に雪を残して後ろを走る先輩に無線で怒られたことを覚えています。20年経った今でも、そのシーズン最初の出動はとても緊張して肩が凝ります。近年、熟練のオペレーターが除雪車を降りることが増え、オペレーターの数が年々減少してきています。加えて若者のなり手も増える気配がありません。なので今後私が後輩オペレーターの後ろを走るようなことになった時は、後輩が怖くて路肩に寄り切れず残した雪は黙って処理し、少しでも若手オペレーター離職防止に尽力したいと思っています

[To Page Top ▲](#)